聖鍬会報

発行所
北海道立農業大学校
同窓会

中川郡本別町西仙美里25-1
電話　0156-24-2122
編集事務局

逆風を乗り越えて

北海道立農業大学校同窓会
会長　若井和博

同窓会の皆様におかれましては、全道各地で御活躍のこととお喜び申し上げます。今年も何かと農業情勢がはっきりせず、経済が混迷する中で大変御苦労の多い一年ではなかったかと推察いたします。それにしましても、我々農業に従事するものにとって、燃料及び肥料・飼料等の値上げは営農に重くのしかかってきました。

今後の経営維持・存続すら危うい状態です。この現状を打開していくのは、簡単なことではないことは周知のことですが、まず、何が出来るのか、何を変えていけばいいのか話し合いを持たれ、情報交換しながら模索していけたらと考えています。

そして、道産品が安心・安全であることをよりいっそう消費者に理解してもらえるように今後も力を合わせて頑張りましょう。一日も早く事態が好転することを希望します。

東日本同窓会連盟総会が今年本校で開催され学校・事務局協力の下に無事終わりました。会員の皆様にお礼を申し上げご報告いたします。

新たな年がより良い年になりますように、同窓会の皆様が御健康で御活躍されますように御祈念し、挨拶とします。

第十一回同窓会総会開催
―今後の事業計画を協議―

三年に一度開催される同窓会総会が平成二十年二月九日（土）に農業大学校で開催されました。第十一回を迎えた今回の総会には全道各地より十八名が出席しました。

総会では、同窓会活動についての意見が交わされ、十七～十九年の事業経過及び、二十～二十三年度の事業計画について承認がなされました。また、役員改選では若井会長が引き続き会長に選任されました。

引き続き夜は、本別グランドホテルで懇親会が開催され、会場では全道から集まった四十四名の同窓会員が旧交を温め、昔話に花を咲かせました。

役員体制（二十～二十二年度）

会長	若井	和博	農大1期（十勝支部）
副会長	青木	伸	農大6期（網走支部）
	鈴木	一義	農講2期（根室支部）
	小倉	清爾	農講11期（石狩支部）
	芹沢	浩一	農講9期（釧路・白糠支部）
庶務	川本	秀二	農大1期（十勝支部）
会計	福田	秀利	農大1期（十勝支部）
監事	八木沼	彰男	農大1期（十勝支部）
	松田	修人	農講18期（釧路・白糠支部）

平成二十～二十二年度事業計画

1. 聖鍬会報の発行
2. 東日本農業大学校等協議会・同窓会連盟総会への出席
3. 全国農業大学校同窓会会長会議への出席
4. 第十二回総会の開催
5. 同窓会ホームページの活用促進
6. 支部及び期別活動の促進
7. 新入会者（卒業生）へ記念品の贈呈

農業には未来はある

北海道立農業大学校
校長　樋口　廣作

寒さが日一日と増し、冬本番を迎えようとしています。同窓会の皆様にはお元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから、本校の運営に多くの御支援と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年の天候は、北海道では周期的に変化する寒暖差の激しい天候で、一部に降雹などの被害があったものの、農耕期間を通して見るとまずまずの天候であったと思います。しかし、全国的には、各地で局地的集中豪雨が頻発するなど地球温暖化の影響かと思われるような現象が見られました。

世界的に見ても、今年はミャンマーや中国南部などで大規模な洪水がありましたし、アフリカやオーストラリアなどでは旱魃が頻発しております。

近年、世界的に水関連災害が増加し続けていると報告されており、今後も気候変動により、豪雨や渇水の頻度が増すと予想されています。

そのような中、今年は世界的な食料不足が報じられました。普通の年でも世界で八億五千万人が飢えに苦しんでいると言われておりますが、今年は気候変動による穀物の不作に加え、石油代替エネルギーとしてのバイオ燃料への穀物需要の増加などにより、需給の逼迫と価格の大幅な高騰を招き、暴動の発生や食料の輸出を制限する国が続出するといった状況になりました。

このようなことから、今年、北海道で開催された「洞爺湖サミット」は、別名「地球環境サミット」とも言われ、地球温暖化などの環境問題がメインでしたが、原油高騰対策などのエネルギー問題とともに食料問題も重要なテーマとなりました。

今後の世界の食料需給は、中国やインドといった人口超大国の食料需要の増大、世界的なバイオ燃料需要の増大、そして地球規模の気候変動といったことを考慮すると、逼迫気味の状況が中長期的に続くとともに、毎年世界のどこかで発生している災害の程度によっては再び世界的かつ深刻な食料不足となる懸念があります。

また、食の安全性の面では、BSEや鳥インフルエンザ、そして基準を上回る農薬等が残留した野菜やウナギなど、輸入食品への不安が高まっている中、今年は冷凍ギョーザ事件やメラミン混入ミルク事件などが発生しました。

海外に過度に食料を依存することの危険性、「地産地消」、「食育」の重要性をあらためて考えさせられました。一般の消費者も我が国の食の危うさと、生産者の顔が見える農畜産物が一番だということを強く感じているはずです。

最近、食料自給率問題や食の安全の問題がマスコミに頻繁に取り上げられており、我が国の農業の実態や今後のあり方への関心が高まってきています。今よりもっと農業が重視される時代が来ます。時間がかかるかもしれませんが、やがて農業の時代が来ます。

なぜなら、国は、食料を自国で賄うために、生産者が安心して農業を営むことができる環境を整える責任があります。また、国は、全ての国民が安心して安全な食料を手に入れることが出来る条件を整える責任があります。それが農業政策であり、食料政策だと思うからです。そして、前述したように消費者の意識が「安全」に大きくシフトし、国も消費者行政の強化に動き始めています。消費者を守ることは農業を守ることに通じると思うからです。

少し楽観的かもしれませんが、農業には未来があるということを学生にアピールしたい。そして、夢や目標に向かって頑張れと言ってやりたいと思っています。

同窓会の皆様には、先輩として、学生に厳しい農業の現実に立ち向かうための心構えや勉強することの大切さなどを論していただきたいと思います。本校に対し、今後とも変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十年度東日本農業大学校等同窓会連盟合同会議を終えて

六月十二・十三日と道立農業大学校を当番校として、帯広市民文化ホールを会場とし開催されました。

会議では、農業高校との連携や農業大学校の連携について情報交換が行われ、総会では、同窓会連盟会長　若井和博氏の進行で本年度の事業計画案、収支予算案等について審議され承認されました。その後、大学校の専修学校化について情報交換が行われました。最後に役員が改選され、新会長に青森県営農大学校、小川広徳氏が選出されました。午後の視察では、バイオエタノール利活用の取組を行っている十勝圏振興機構、明治乳業十勝チーズ館では製造工程を視察し、各種チーズの試食があり好評でした。夜は宿泊先の十勝川温泉で懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で情報交換が行われました。

十三日の視察研修では、池田町ブドウ研究所にてブドウの品種別管理方法等について説明をいただき、ワインの製造工程等を視察し、JR帯広駅で解散となりました。参加者をお見送りし二日間の日程を無事終えることが出来ました。（同窓会事務局）

農大の一年

三月　卒業式

三月七日に畜産経営学科三十一名、畑作園芸経営学科三十名、稲作経営専攻コース十名、農業経営研究科六名の計七十七名が、それぞれ本校を卒業、修了しました。卒業生がお互いに泣きながら別れを惜しむ場面もあり、感動的な卒業式になりました。

四月　入学式

四月九日に入学式が行われ、畜産経営学科三十二名、畑作園芸経営学科三十名、稲作経営専攻コース十名、経営研究科八名が入学しました。新入生は緊張した面持ちの中、入学式を終え、農大生としてのスタートを切りました。

五月　強歩大会

五月三十日、競歩大会が行われました。三二・一九五kmもの距離を走り通す学生、休みながらゆっくり進む学生、それぞれのペースでゴールを目指しました。

七月　農大祭

待ちに待った農大祭、今年は実行委員会が趣向を凝らし、一日目の七月五日は体育大会を行い、前夜祭ではキャンプファイヤーを囲みました。一般公開の二日目、七月六日は好天に恵まれ多くの町民やOBが来場しました。キャンパスにはホットドックやかき氷など学生の出店が数多く並び、ステージでは、早食い競争、女装コンテスト、合唱コンクール、ライブが行われ来場者を大いに楽しませました。

また、会場中央の特設リングでは、年に一度の「農大プロレス」が開催され、農大レスラーが、空中戦あり、乱入ありの白熱（？）した戦いを繰り広げました。

オープンキャンパス

七月三十日のオープンキャンパスでは全道から集まった高校生、保護者等に農大の教育内容や学生生活について説明し、実際に施設を見学してもらいました。また、体験学習では実際に作物の栄養診断やもくし作りなどを、先輩に教わりながら体験しました。

九月　体験学習

道内の先進的な農家の技術や経営を身をもって体験するために、養成一学年が道内各地の農家で約一ヶ月間の実習を行いました。実習を終えた学生は、たくましさを増し、一回り大きくなって帰ってきました。

十月　農大市

十月十八日、農大市が開催されました。会場となった農業機械格納庫には学生達が丹精込めて育てた野菜や馬鈴薯、豆類、牛肉に加え、チーズ、アイスクリーム等の加工品がところ狭しと並びました。会場は早朝から詰めかけた町民で大盛況となり、終了時にはほとんどの品物が完売となりました。対応する学生は忙しく走り回っていましたが、これまでの苦労が報われた一日となりました。

十一月　海外農業視察研修

十月三十日～十一月八日の日程で養成二学年の海外農業視察研修が行われました。参加した五十六名の学生はニュージーランド・オーストラリアでの農業機械メーカーや乳製品メーカーの視察、農家へのファームスティを通じて海外農業のスケールの大きさを実感して帰ってきたようです。

同窓生の広場

思い出・夢

稲作経営専攻コース
十二期生
高市　和昭
（小平町）

みなさん、いかがお過ごしでしょうか？今年も残り少なくなりましたね。無事に収穫作業を終えて、我が家の今年の農作業もいよいよ終盤を迎えております。

私も農大を卒業して、八年ほど過ぎました。夢中で働いているからか、あっという間に感じます。

私は、稲作経営専攻コースと経営研究科を卒業したのですが、稲作コースの普段は深川の拓殖短期大学の講義が主でしたので、本別にいた期間はとても短かったです。それでも年二回の農大での集中講義は、友人と寝泊まりして学ぶのがとても楽しく、とても良い思い出となっています。

その後の経営研究科では、新築の校舎、寮にて気持ちよく生活することが出来ました。また新たな友人も増え、お酒を飲むのが忙しい毎日を過ごしました。

楽しかったことばかり書きましたが、農業への夢、目標、やる気、そして大切な友人が出来たのもこの四年間でした。学んだことは数多く、農業経営の基礎となっております。農業情勢は現在良いとは言えませんが、私は毎日楽しく仕事をしています。農大での四年間で見つけた目標があるからです。安心・安全な米作り、ありきたりですがこれが私の変わらない目標です。

四十歳を目前に思う

畑作園芸経営学科
十五期生
高橋　昭博
（上士幌町）

秋の収穫期も終盤を迎えた九月中旬、あたりも薄暗くなりかけた白菜畑で、突然私の携帯電話が鳴り、懐かしい声が聞こえた。「おー昭博かー、久しぶりだね。悪いんだけど今度の聖鍬会報の原稿書いてくれないかな？」農業大学校の私の恩師である川村明史先生だ。おそらく十年以上も声を聞いていなかったのだが、当時と全く変わりのない声の調子で、とても懐かしい思いがこみ上げてきました。

今思えば、私が農業に携わった当時、家の経営はあまりよい状況ではなく、少しでも借金を減らさなければ、という思いで、新規作物を導入し、様々なことを試してきました。

その間、家族のこと、子供のこと、自分自身のこと、良いこと、悪いこと いろいろなことがありました。

そして今回、川村先生から電話をもらい、農大でのわずかな二年間の生活を思い出しました。

その当時は若さもあり何をしても楽しく充実した毎日でした。農業に対しても、それなりに夢を見て将来を描いていたような気がします。

現在は気がつけば四十歳を目前に控え、子供達も中学生になり、本当に早いものだとつくづく思いました。

今回の先生からの電話は何気ないものでしたが、私にとっては、少し昔を懐かしむと同時に、農業に取り組む上でよい刺激になりました。ありがとうございました。

最後に、久しぶりに十五期生同窓会を開催しましょう。どう？

期別世話役

〈農講〉2鈴木一義／3川端治／5菅谷誠・渡辺善信／7大沢義一／8植田博／9森田洋三／10森山睦美／11大平清吉／13辺見政孝／16小南和夫／17佐川満／18吉田甫／19西山利昭／20河田裕／21相沢勲／22石川眞清／23松崎文一／25仲鉢昭夫／27芳澤改治

〈農大〉1川本秀二／2和田嘉晴／3塩村昭博／4石丸博雄／5高井正行／6道下貞夫／7笹島喜郎／8岩井敦史／9井出和実／10富山和也／11石原英之／12森本耕二／13宮本茂行／14牧村康弘／15小松洋一／16遠山昇治／17田村直樹／18大畧晋二／19近藤大樹／20三田浩司／21佐藤昭徳／22熊谷直哉／23田中真理子／24塚田秀則／25齋藤かおり／26日光純一・渡邊基樹／27柏葉宏樹・嶋貫一也／28鈴木隆也・中澤光太郎／29今西大和・今野大吾／30山木秀幸・佐藤貴文／31中澤好喜・幕田桂一／32黒川昌毅・若木章宏／33廣瀬正幸・下田奨

〈農大稲作〉1吉田和浩／2大江博之／3宍戸聖／4平塚美明／5水嶋淳・伊藤優治／6石川英樹／7嶋田雅虎／8泊り雅幸／9石崎憲一／10富樫孝／11岡村博信／12平隆之介／13吉見拓也／14吉村正之／15森勇貴／16石川大輔／17竹内誠／18國岡晃平／19中山義之／20外山隆祥／21下道達也

〈農大研究〉1内野康晴／2加藤幸嗣／3木村晴美／4山岸淳／5中西崇継／6今西大和／7仁井邦夫／8鈴木健司

新しい仲間

農大で学んだことを生かして

畜産経営学科
三十三期生
中山　貴裕
（厚岸町）

こんにちは。農業大学校畜産経営学科第三十三期卒業生の中山貴裕といいます。学生時代に学科長をやっていたということもあり、今回の原稿を書かせていただくことになりました。

現在、厚岸にある実家に就農して酪農を営んでいますが、農業大学校で学んだ知識や技術は、就農しても役に立つものがあったと感じています。

私は家で乾乳牛・クローズアップ牛

の担当をしているのですが、農大で学んだ知識があったからこそ、適切な栄養管理を行うことができ、牛の故障を抑えることができているのだと思います。

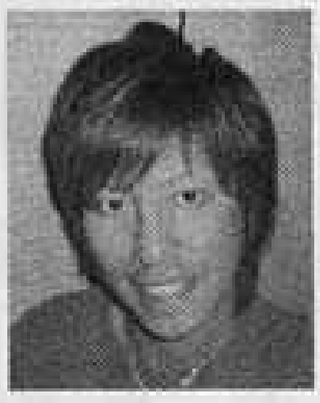
また、実習で何度もやった蹄治療の技術を生かして、現在では自家の牛の蹄治療を行っています。今はまだ未熟なのでなんとも言えませんが、これから回数をこなすことによって、蹄病を減らして健康的な牛を作り上げていきたいと思っています。

さらに農大では、技術・知識習得の面だけでなく、これまでになく多くの人と出会ってコミュニケーションをとることで、人との付き合い方を学んだり、広い交友関係を得たりと、人間としても自分が成長できたと思っています。

そんな素晴らしい技術・知識を得ることのできた農業大学校を卒業できたことを、私は誇りに思います。

2年間支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。これから私は、よりレベルの高い個体管理ができる酪農家になれるように、頑張りたいと思います。

農業には∞の可能性が！



畑作園芸経営学科
三十三期生
下田　奨
（音更町）

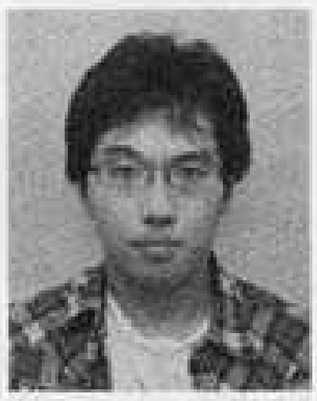
皆さん元気にお過ごしでしょうか、今年から農家一年目として働き始めた下田奨です。

農大での生活は、誰もが思うことだけど、人生の中でかなり濃い部分になるところです。「仲間」「つながり」「敬い」「知識」「飲み会」全てが、農大で学べたと思います。農業という職種はとても特殊な仕事の一つだと思います。一人では出来ないことも多いですし、助け合いが重要です。農大で得た仲間は一生の財産です。このつながりは、二年間の間だけではなく、卒業してからもずっと続いていきます。仲間ってすばらしいものです。後輩のみんなも、残り少ない学校生活を満喫して、一生の仲間作り、農大ネットワークを築いてください。

自分の話になりますが、私は相変わらずの「お手伝い」感覚で一年目が終了していきました。一年目は、かなり難しかったですね。仕事の内容もかなり濃いものでしたし、失敗したり悩んだり寝坊したりと、あわただしい一年でした。また二年目に向けて課題も沢山発見することが出来ました。問題は、「お手伝い」から「農業経営者」としての自覚です。周りに認めてもらうようになるって事に若さって事でなめられてはいけません。

実績だとか経験では明らかに自分はベテランの農業経営者達には負けています。そこを「ひらめき」と「勢い」で乗り切っていくしかないと思います。だって、それが出来るのが若さだと思います。勢いこそ若者の特権です。農業は助け合いも大切だと文頭に書きましたが、生き残ることも大切です。今の厳しい農業情勢を生き残って楽しい余生を送りたいです。皆さんも頑張りましょう。私も皆さんに負けないように頑張ります。

就農一年目



稲作経営専攻コース
二十一期生
下道　達也
（士別市）

今年の春に稲作経営専攻コースを卒業してから、早くも半年以上が過ぎました。

就農一年目ということで、私は今年から本格的に我が家の農業経営に関わることになりました。

はじめの頃は、毎日の慣れない作業を、親に注意されながら仕事をしていましたが、最近ではトラクターや各種作業機の扱いにもだいぶ慣れました。

失敗することもあるけれど、めげずにそれを今後の教訓にし、早く親の手伝いではなく、自分が農業を経営できるよう努力していきたいと思います。

実際に農業を行い、自分がものを作る側に立ったことで、いろいろ思うことも出来ました。最近のことでは、汚染米問題があり、私の家がもち米農家なのでなおさら、どうしてわざわざ海外から汚染された米を買い、よく平然と売ることが出来るものだと思います。安いと言うことが、一つの要因だと私は考えますが、本当にそこまでする必要があったのか疑問に思います。

自分が生産する側になったことに責任を持ち、これからも一人前の生産者となることを目標としたいです。

卒業して

経営研究科
八期生
鈴木　健司
（豊頃町）

農大の皆さん、同期の皆さん元気でお過ごしですか。

今年の春に農大を卒業し、早くも一年が経とうとしています。家の手伝いもあまりせず、普通科の高校に通っていた私には、農大での生活はとても貴重なものとなりました。

養成課程では、仲間と共に実習や授業、行事を通じて多くのことを学びました。その後、もっと勉強しようと思い研究科に進学。授業、校外実習を通じて、農業というものをもう少し深く知り、考え方の幅も広がりました。

そして今は、自家では牛舎新築に向けて話し合いが進んでいます。世界経済の変動が激しい中で、安定した経営を目指し、本や新聞に目を通す。勉強の日々は続いています。

よりよい経営者となるべく日々精進していきたいと思います。

期別活動

農講二十三期生同期会

幹事　松崎　文一

この度、農講二十三期同期会を卒業してから四十年目の節目にさる平成二十年二月二十三日に代表、山城博之他三名が発起人になり、網走市かに将軍（友愛荘）にて恩師の上村寛先生を招いて女性七名、男性二十四名、総勢三十一名が出席して深夜まで盛大に行いました。

三年前に北見地区で行いましたが、今回初めて出席された方もいまして、回を重ねる毎に一人でも多く再会できればと思います。

次回三年後に富良野であうことを約束して解散しました。

農大二十一期生同期会

幹事　三品　正幸

平成十九年十二月一日（土）十勝川温泉第一ホテルにて農大卒業後、初の同期会が開催されました。当時担任をしていただいた細川、高田、山岸先生に参加していただき、総勢三十三名で賑やかに行われました。

平成八年に卒業してから十一年が経ち、各々経営を任されてくる年齢になったため全員参加とはならなかったものの、多数のご出席をいただき、誠にありがとうございました。懐かしい顔ぶれが揃い、昔話に花咲く者、お互いの近況報告を話し合う者、皆時間を忘れ語り合いました。

次回の同期会は、なるべく間隔を空けずに全員参加できる時期に開催したいと思います。

研究四期生同期会

幹事　山岸　淳

毎年恒例になっている研究科四期生の同窓会を、平成二十年二月十六日に十勝川温泉・大平原で開催しました。都合が合わず、来られないメンバーもいたため、少人数での開催になりましたが、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。毎年開催しているので「懐かしい」感じはあまり無く、「変わらないな」というのが感想です。

お世話になった先生方の多くも農大を離れ、なかなか会いに行ったりも出来なくなりましたが、同窓会の時には来て頂き、一緒に楽しい時間を過ごせることをとても感謝しています。

また来年「研究科四期生同窓会兼同総会」になるような気もしますが、みんなからの嬉しい近況報告等を楽しみにしつつ、笑顔で再会できるのを待っています。

事務局からのお知らせ

1　会費の納入及び寄付金について

本年度は二十～二十二年度分の会費納入年となります。同窓会の運営に御理解をいただき、同封の郵便振替用紙によりお振り込みいただけるようお願い申し上げます。

◎会費…二千円（三年分）

また、同窓会では引き続き皆様の寄付金を受け付けております。皆様の御協力をよろしくお願いします。

2　支部活動・同期会の助成について

支部活動及び期別活動を計画された際には同窓会事務局までご一報下さい。諸経費の一部として活動費を支出します。また、ホームページや会報等で、活動の様子を紹介させていただきますのでよろしくお願いいたします。

3　同窓会ウェブサイトについて

同期会、支部会開催のお知らせ、開催結果、その他活動について、ご要望があればホームページ上で載せていきます。事務局までご連絡下さい。

URL http://www.noudai.on.arena.ne.jp/
メール s-noudai@star.agri.pref.hokkaido.jp

編集後記

▽年の瀬も迫り、あわただしい日々が続いていますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年も聖鍬会報をお届けします。

▽二月には二年に一度の総会が開催されました。多くの方に御出席していただき、本当にありがとうございました。

▽学内では、二学年がプロジェクトのとりまとめに追われ卒業が近づきつつあるのを感じると同時に養成課程、研修部門の入校試験が終了し、来年の新入生を迎える準備が始まっています。

▽同窓会事務局は、皆様の活動が円滑に行えるようにいっそう努力して参りますので、今後とも宜しくお願いいたします。（事務局）